

## 課題

読書バリアフリー法において「端末機器等及びこれに関する情報の入手支援、情報通信技術の習得支援」(第14条・15条関係)が求められている中、令和5年度の本研修において

- ・視覚障害に限らない多様な読書困難への支援の必要性
- ・支援に必要な情報格差の存在を認識した。



## 事業のねらい

多様な読書困難へのサポートにつながるよう講師選定・テーマ設定を行うことで受講者ニーズに応える。ICTを活用した支援機器や支援ツールに関する情報のアップデートを行ってもらう。また、研修後アンケートによる効果測定精度向上、オンデマンド配信による知識習得機会の確保、情報格差解消への貢献を目指す。



## 実施内容

### プログラム1・2

読書バリアフリー概論と読書支援機器に関する講義

### プログラム3

読書支援機器・ツールの体験ワークショップ

「視覚障害者の読書環境の整備の推進に関する法律について」講師 成松一郎氏



読書バリアフリー法の成り立ち、基本理念・基本的施策や行政・各関係者に求められる役割等

「視覚障害者用『読書支援機器』を活用した読書環境の現状について」講師 松井進氏



視覚障害者の立場から読書・情報取得に役立つ先進機器・ツールの紹介・デモ。未来への期待

「ICTを活用した読書支援」講師 平林ルミ氏



読み書きに困難がある子どもたちへのICTを活用したサポート活動の経験から、タブレットを活用した支援の事例を紹介

「体験(ワークショップ)」

質疑応答

## 成果

### ①多様な読書困難者への理解



外国語が母国語・ディスレクシア・肢体不自由の方等

### ②ICTを活用した最新支援機器・ツール及び支援事例の紹介、実体験



読み書き障害 Kさん・通級指導教室でのSさんの事例等

### ③オンデマンド配信による情報発信・知識習得機会の確保



当機構HPにて公開  
(再生回数 約257回  
2025/2/19現在)

### 前年との比較

	R5年度	R6年度
応募者数	35名	41名
受講者数	29名	30名
当日アンケート回収	21名 (72%)	30名 (100%)
事後アンケート回収	10名 (34%)	18名 (60%)